

# 梅之木通信

## 【週末縄文人の会】

第42号 2023.10.7 発行

### 新たな活動が始まりました

5号棟も完成し、さしあたっての目標がなくなってしまった週末縄文人は、住居のメンテナンスだけでは飽き足らず、はたと困ってしまいました。そこで、NPO「自然とオオムラサキに親しむ会」がオオムラサキセンターと北杜高校の間にある森林の保全を兼ねて「森のあそびば」づくりを始めたのに便乗して縄文住居を模したジャングルジムを建設することにしました。なかなか制約の多い場所で、「火を使ってはいけない」「屋根をつけてはいけない」・・・と、いった条件をクリアするため、今までの縄文住居建設の経験を活かして骨組みだけのスケルトン縄文住居で子供たちが登ったりして遊べるものを考えています。どのようなものが出来上がるか？ また新たな建設が始まりました。

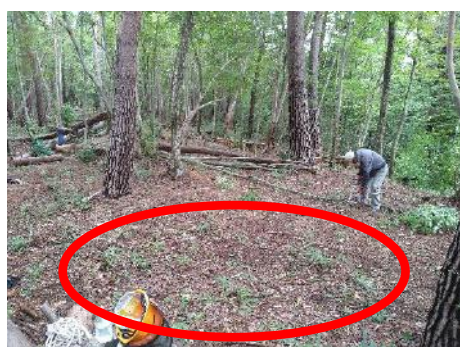
#### ☆ 「森のあそびば」づくり



最初はいつものように棟梁がどうしても！というので石斧で始めましたが、やがては、のこぎり、チェーンソーも使いながら柱用材料の準備開始です。皮むき作業は手慣れたもの。



今までの梅之木遺跡と異なり林の中なので何となく雰囲気違います。こんな場所にも縄文人が住居を作って住んでいたか？とは思いますが、とりあえずあまり深く考えず・・・赤丸あたりが建設予定地になります。



7本柱の大きな住居は無理なので4本柱の住居を想定。横木の間隔を広くして子どもの手が届く程度にします。玄関部分は上に乗ったりすることも考慮して検討中。



❖ 発掘現場見学会（10月6日）

フルリールむかわ近くにある発掘調査中の埜場遺跡（5000年前の縄文中期の集落跡）で多くの方々が発掘作業をされている中、24名が参加し佐野さんに案内していただきました。出土した土器を見ている時とは違い、土の中から出現した土器や石器がそのままの形で置いてあるところは初めて見る光景でとてもリアリティーがあります。



土中から姿を現した土器の様子ははっきりと見ることができます。

佐野さんが立っている位置が住居床。住居が放棄され土砂が堆積したあとに、土器などの不要物が捨てられたために高さの差が発生。

赤丸の下に炉跡があるようなので、表面の土器を取り払うとまた新たな物が出現するかもしれません。



柱の穴は8個、溝も何重にもなり、増築を重ねて大きくしていった様子が見えます。増築したのは家族が増えたから？随分な大家族のようです。

すぐ横には一列に並んだ柱跡から高床倉庫のよう。住居跡と隣接していますが時代の違いがあるのでしょうか？



縄文時代の地表面から何度も石空川が氾濫を繰り返して堆積したことが地層からよく分かります。



金生遺跡にも見られる配石遺構が住居跡のすぐ横に。ここも集落跡と祭祀施設の複合遺跡でしょうか？



貯蔵用の穴が随分深く掘られています。いつでも手に入る現代と違って、あるときにあるだけ蓄えるしかありません。

❖ 興味が増した方はぜひ発掘ボランティアに応募下さい！ 佐野さんが歓迎してくれるものと思います。